

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778 長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

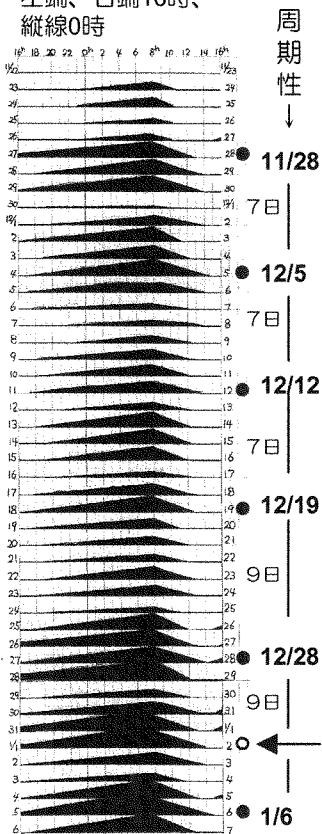
続報 No.321

2022.01/07 (金曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

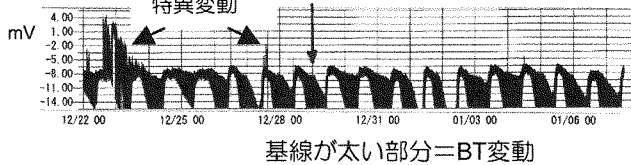
No.1778 続報 CH29 (10日間静穏)・K1 (7日間静穏) 完全終息の可能性 終息認識正しければ 2月17日±2日 発生 の可能性

図1 CH15BTスケッチ
CH9,17,29、(CH21)同期
左端、右端16時、
縦線0時



周期性無し=1/2の場合
平均周期=7.8日 → $1/2 + (7.8 \times 6) = 2022.2/17 \pm 3$

図2 CH29 12/22 00h~1/7 13h
極大 8/8.0 終息 12/29.0 → 2022.2/16 ± 3
特異変動



■図1はCH15のBTスケッチ。平均周期=7.8日認識、周期性の無い小ピーク=1/2の可能性。この場合は6倍値で2/17±3 発生の可能性が示唆されます。

■図2はCH29特異。12/22-23の大きな変動以降は12/27-28に微小変動が出現したのみで、12/29以降は静穏。既に10日間静穏基線継続。この場合は2/16±3 発生の可能性が示唆されます。

図3 K1 12/22 00h~1/7 13h
極大 8/13.0 12/31.4終息 → 2022.2/17 ± 3

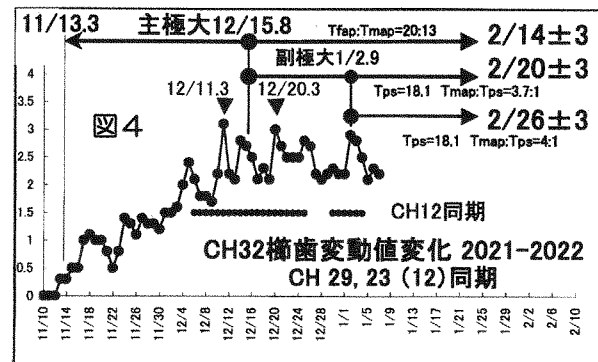


■図3はK1特異。大きな変動はなく、12/31.4以降は静穏日周変動基線。この場合は2/17±3 発生の可能性が示唆されます。

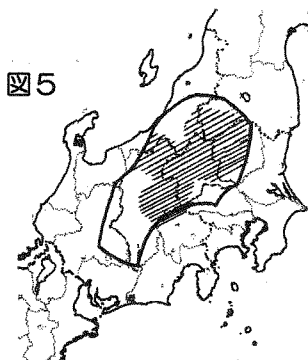
■図4はCH32の櫛歯変動値変化。1/2.9に変動値が大きくなり副極大の可能性。主極大~副極大 Tps=18.1日、Tmap:Tps=3.7:1の平均比では、2/20±3 発生の可能性。平均比ですので若干誤差大。ちなみに主極大が緩やか認識では比=4:1となり、2/26±3 発生の可能性となります。

CH32櫛歯変動値変化

初現 11/13.3—極大 12/15.8 = 2022.2/14 ± 3
副極大 1/2.9 Tmap:Tps=3.7:1 = 2022.2/20 ± 3
副極大 1/2.9 Tmap:Tps=4:1 = 2022.2/26 ± 3



■以上のとおり、前続報で記した2/15±3の誤差内である、2/17±3 発生の可能性が極めて考え易い状況ですが、CH29=1/4.4、K1=1/4.9に、無視できる程度の極めて微小な変動が有。念のためこれを最終変動とした場合は2/25±3 発生の可能性も示唆されます。今後現われる変動の可能性は以下。これを確認し、2/17±2で正しいか、2/25±3となるかを決定したいと考えます。



- ◆推定領域：図5太線内領域 火山近傍
斜線域=可能性考えやすい参考推定領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3
現状噴火前兆無し。現在近傍火山噴火考え難い
- ◆推定時期：2月17日(誤差±2日)または(2月25日±3)の可能性
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：AM 9:00±2 又はPM 6:00±2

櫛歯終息 BT終息 CH29直特 K1直特

2/17±3 発生の場合 → 1/24± 1/27± 1/16± 1/17±
2/25±3 発生の場合 → 2/7± 2/10± 1/23± 1/24±
2/25±3 発生の場合 → CH15BTに1/9±周期性無小ピーク出現か?

※本紙で単に±と記してあるのは「頃」という意味です。